

平成28年度 港区立麻布幼稚園経営計画

港区立麻布幼稚園

園長 大島 美知代

I はじめに

平成27年度に本園は80周年を挙行了した。区主催の周年行事に伴い、園とPTAと共催の「お祝いの会」を計画し、実施した。「お祝いの会」の行事は、昨年度は周年行事に関して2学期初めから保護者に丁寧に園の姿勢を説明し、リーダーシップを取りながら行事の計画を進め、実施した。80周年という節目において、保護者の園の教育に対する協力姿勢がより強化し、連携が深まったと感じた。今年度は3歳児定員と4、5歳児進級に当たって入園児が増加した。3年保育が開始した平成25年度から本園の在籍園児数は増加を続けており、今年度は最高の在籍園児数となっている。2学期からは「子育てサポート保育」の開始、今後は園舎増築の計画もあり、ますます本園の教育は地域・保護者からの期待が高まり、港区の幼児教育の質を高めなければならない。

幼児教育の基本として、教育基本法に明示された「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものである」こと、幼稚園教育要領の「幼稚園生活を通して、幼児期に「生きる力」の基礎を育成する」ことを踏まえて本園は教育を積み重ねてきた。幼児期には、幼児期にふさわしい生活をさせ、生き生きと意欲的に自信をもって様々な活動に参加し、心身ともにたくましく成長するように指導することが重要である。港区では幼・小中一貫教育を目指し、アカデミーでの連携や保幼小の交流活動を進め、合同の研究を推進している。本園でも互恵性のある連携活動を進め、幼稚園での学びや培った力を小学校就学につなげたり、地域の保育園児と心のつながりを深めたりすることで、年長5歳児の育ちにつなげていきたいと考えている。

今年度、新たな教職員を迎え、新しいスタートを切った。今まで港区での教員経験のみの教員集団であり、視野がなかなか広がらなかったが、今年度は他区の教育の経験をしている教員が加わったことで指導方法や環境構成、教材選択等を新たに提案してくれており、本園の指導全体が活気付いていると感じている。本園の良き伝統や港区の教育と新たな力を融合し、今後園児の増加も踏まえ、90周年に向けて新たな教育の歴史をつくっていく。昨年度まで培ってきた協力体制を継続し、園児の成長のために意欲的に教育活動を進めていく。教員がそれぞれの良さを発揮し、人的・物的環境を常に見直し、意欲的に、計画的に教育を進めていきたい。日々、自分の指導を厳しく見つめ、よりよい指導を目指して、真摯に評価し、改善を実行できる教育を進めていきたい。教師全員一丸となって教育内容の充実に取り組み、麻布幼稚園の教育を発展していけるよう、職責を果たす。

地域、保護者からの本園の教育への期待に応えるべく、日々できることを明日にのばさず、取り組みたい。保護者には、園児の成長を支える両輪の1つを担っていることを理解させ、共同体として連携していきたいと考える。保護者と共に園児を確実に成長させる教育活動を推進する。年度初めの保護者会にて本園の方針を下記のように保護者に伝えた。今年度の協力体制づくりにつなげていきたい。

麻布幼稚園の子どもたちが、のびのびとたくましく生きていくために

麻布幼稚園の子どもたちを取り巻くすべての大人が

- ・安全・安心に対して心一つにして取り組もう！
- ・笑顔で共に力を出し合い、意見を交わし合い、より良い教育活動を推進しよう！

II 目指す幼稚園

港区学校教育推進計画より、港区の重点課題を本園の教育に当てはめて

- ★(1) 道徳教育の推進 → 人権教育、道徳教育を重視…一人一人を大切にする 規範意識を育む指導
- (2) 基礎学力・活用力の習得 → 幼児がもつ興味・関心を広げ、深め、探究心を重視
- (3) 理科教育の推進 → 自然との関わりを深め、試行錯誤できる活動を重視

- ★ (4) 健康な体づくり(体育・健康教育) → 運動遊び、自分の手や体を使って様々な活動の体験の重視
…今後のオリンピック・パラリンピックを見据え、運動遊びの中から様々な動きを体験させ、体の動きの基本となる体幹を育て、粘り強く取り組む心と体を育てる指導
- (5) 特別支援教育の充実 → 一人一人の実態、保護者のニーズをつかみ、適切な丁寧な対応を重視
- (6) 国際理解教育の充実 → 日本とは違う文化、言語をもつ友達との関わりを重視
- (7) ICT を活用して教育の推進 → 幼児だけでなく、保護者との連携や広報活動にも使用する
- (8) アクティブ・ラーニング的手法を取り入れた学習 → 幼稚園に安定し、教師や友達と関わり、夢中で活動できる幼児を育てる
- (9) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック教育の充実 → 運動遊びや国際化に関する興味・関心を育てる
- (10) いじめ・不登校対策の充実 → 幼児、保護者一人一人の考え、気持ちを丁寧に受け止め、共に考え、相談機能を充実する。
- ★ (11) 就学前教育の充実 → アカデミー研究の充実 交流活動を重視
… 一人一人の幼児の心情・態度の育ちを踏まえ、自分で課題を見つけ、解決に向けて主体的に協働的に学ぶ姿に向けての育ちを確認する。就学の基盤となる幼児期で育てたい意欲・技能等も身に付けられるよう指導する。

今年度は、上記の 11 項目の中の★印を特に重点項目として指導を行う。

「教育の港区」を実現するための基本姿勢である

- 子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校・園づくり
- 子どもたちが生き生きと楽しく学ぶことができる学校・園づくり
- 保護者や地域に信頼される学校・園づくり を念頭に置き、幼稚園経営を推進する。

☆目指す幼児像（教育目標）

幼児期は生涯にわたる生活や学びの基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、自ら考え、行動できる人間性豊かな幼児の育成を目指す。

- げんきな子 ○ やさしい子 ○ かんがえる子

☆目指す幼稚園

キーワード 安全・安心・つながり・豊かに育つ・学び合い

- いつ、どんな時も安全で安心な幼稚園
- 幼児が人や物と関わり合い、心身共に豊かに育つ幼稚園
- 教師が互いに学び合い、高め合って教育を推進する幼稚園
- 保護者が子育てを楽しみ、親として育ち合う幼稚園
- 地域や同じ地区の保育園、小・中学校と適切な連携を図り、教員の資質向上を図る幼稚園

☆今年度の取り組みの目標

- 今まで幼児に培ってきた態度や力を確認し、幼児期により身につけさせたい態度や力を積み重ねる。
 - ・自分のこと・生活に必要なことが自分でできる子ども→自分で考え、自分で決定し、活動する子どもを育てる。
 - ・集団生活で必要なきまりや約束、遊びのルールなどを発達段階に応じて気付かせ、それらを守り行動

できる子ども→周囲を見て感じ、自分で考え、行動できる子どもを育てる。

- ・教師との信頼関係を構築し、心のつながりを基として、興味・関心を広げ、積極的に活動する子ども→活動を継続する中で自信をもって行動する子どもを育てる。
- ・考えたこと、思ったことをはっきりと言葉で伝え、相手の話も聞ける子ども（アカデミー研究のねらい）→相手と自分の考えの違いを理解し、自分の気持ちを調整したり、自分の考えをはっきり主張したりできる子どもを育てる。
- ・言葉や身体、音楽や絵画、造形等の様々な表現方法でのびのびと楽しんで表現できる子ども→人と関わり、同じ目的をもって協働して遊ぶことができる子どもを育てる。
- ・子どもと保護者が集団として社会生活をする場が幼稚園である。幼稚園は初めての学校であることを理解し、子どもが育つ教育を推進するため、保護者が園と連携し、地域とよりよい関わりをもち、子どもの手本となり、共に力を出し合えるよう、教師は保護者を支え、親としての育ちを応援する。

III 今年度の具体的方策と今後の中期的目標

○教師の自立・協働・つながりと実践・評価と改善

自立＝教師自身の良さを自分が認め、保育に生かせるよう、準備を周到に進める。自分の力の苦手な分野、不足している技能等は自分で改善方法を考え、研修し、実践する。自己を高める努力を惜しまずに。

- ・教師一人一人が自分の力を伸ばすために、自分の保育上の課題と向き合い、課題解決のために労を惜しまずに工夫し、実践につなげる。
- ・幼児の心の安定、日常の遊びの充実が園行事につながるよう、日々の幼児との心の触れ合いや遊びの広がり、深まりを目指し、丁寧に準備し、計画的な保育を行う。
- ・自分の学級経営の方針をはっきりと示し、講師や幼稚園アシスタントとよりよく効果に連携し、一人一人の指導や学級全体把握の責任を負う。
- ・幼児が安心し、安全・安心な園生活を送れるように、視野を広く、先を見通し、的確な予測に努め、あらゆる危険を排除する。幼児自身にも危険回避や状況把握の力の育成を図る。

協働＝情報交換の機会を自らつくり、教師が全園児の育ちに関与する。教師同士も考えを伝え合う。また、5歳児が中心となっていく交流活動には3、4歳児の指導内容との連続性を考える。

- ・様々な経験から様々な考えをもつ教師集団である。打ち合わせや会議を必要時に設定し、共通理解を図る。
- ・園務分掌は責任をもって担当が徹底して行い、組織として園の円滑な運営に力を尽くす。
- ・園内研究会では、人的・物的環境を見直し、幼児の体の育ちに注目し、遊びの中核を「運動遊びの充実」を目指し、研究を行う。講師を招き、年間3回の研究保育を行い、全園児の連続的な発達に関して学ぶ。園内研究会には各学年の実践事例を持ち寄り、課題を共有し、共に学び合う。
- ・3年保育の利点を活用し、異年齢との関わりを工夫し、成果を見取り、幼児の心の成長に生かす。
- ・地域の保育園児との交流を計画的に実施し、幼児同士の関わりや活動内容の充実を目指す。交流の前後に話し合い、幼児期の教育について考える機会とする。地域の保育園長を評議員として招き、幼児期の教育について参観し合える体制づくりを考える年とする。

つながりと実践

＝アカデミー研究では「聞く・話す」力に焦点を絞り、幼児期の指導について保育を公開する。また、同アカデミーの中学校生徒の職場体験と幼児との関わりでの授業を行う。また、保護者の力を保育に活用し、幼児だけでなく、保護者にも直接かかわる体験から幼児期の教育の大切さを理解していただく機会にする。

- ・六本木アカデミーの研究において教員の指導力の幅を広げる。また、入学前の教育を振り返り、入学後を見通しての保育実践を行う。
- ・併設小学校1年生、5年生との年間交流の計画立案を行う。交流活動の充実のため、事前・事後の打ちあわせ、評価を充実する。小学校への親近感、期待感を感じさせると共に、就学への安心感につなげる。
- ・保護者の保育参画を開始する。行事への参加を中心に、保護者が自分たちの力を発揮し、子どもの遊びや生充実につながる事が感じられるようにする。保護者が様々な形で幼児に関わり、共に遊び、役に立つことが幼児理解や幼稚園教育の理解につながり、家庭教育の大切さ、子育ての楽しさに気付く機会となるように実施し、実施後には家庭教育としての重要性について意味付ける。読み聞かせボランティアの実施、その他の分野での力の発揮を考える年とする。
- ・地域の方々の力を教育に生かせる機会をつくり、幼児の遊びや生活を豊かにし、地域の方々と心を通わせ、地域の方々とのつながりを深める。

評価と改善

＝日々の保育、行事、学期ごとの反省評価を真摯に行う。改善点を明確にし、必ず実践につなげる。

今の実態、状況を厳しく捉える眼をもち、原因と結果の関係に常に注目する。

- ・評議員には港区立幼稚園元園長と近隣の保育園長をお願いし、本園の教育の評価をお願いする。また園内研究会では事例の分析考察し、教員自身が学んだことを実践し、教員同士で的確な評価を行う。
- ・学期末の保護者との面談、年度末の保護者評価結果からは、評価の根拠を伺い、自分たちの指導の改善の方策を適切に実践につなげる。
- ・なぜ、その評価となったのか、今後はどのように改善するとよいのか、を具体的に出し合い、実践し、また評価するその積み重ねを記録し、教員の理解につなげる。保護者にも成果を説明し、共に理解を深める。

IV 中期的な経営目標と方策

28年度

- 保幼連携・アカデミーでの連携活動と中心として、幼児期に育つ心情、意欲、態度、技能、力を把握し、入学前教育の意義を指導計画に位置付け、充実する。
- 国際化に関する活動、運動遊びの活動の充実を図り、港区の地域性を活かした保育、幼児期に健康で逞しい心と体づくりに関する教育を指導計画に位置付け、充実する。

29年度～31年度

- 園舎増築に動きが本格化すると思われる。園児の生活や遊びが安全で安心に行えるような環境づくりに努める。
- 在園児増加も予想される。学級の育ちを確実にするとともに、異年齢交流や異校種との連携活動を継続し大勢の中でも一人一人がしっかりと自分を出し、自信をもって活動できる環境、活動を研究し、指導計画を作成する。

★保護者や地域に今後も本園の教育を理解していただくために

○広報活動に努める

園日より、ホームページの充実、交流活動や研究内容の周知、評価内容の公開、幼稚園の教育の丁寧な説明などを行う。

○体験を効果的に取り入れる

未就園児の会の運営を充実し、地域の保護者が幼稚園教育の理解につなげる。また在園児保護者には、保護者の関わる行事・保育参観、懇談会の充実、保護者の得意分野を保育に生かす場をつくることによ

り幼児の育つ過程を保護者自身が体験する。これらを計画的に効果的に行う。

V 短期的目標と具体的方策

○教員の協働体制を強化し、明確に考えをもち、かつ柔軟な対応をしながら園の教育を推進する。

(1) 指導力向上について

- ・週案打ち合わせ、幼児理解に関する協議会、園内研究会事例作成に関する協議会等を適宜開き、指導内容、環境構成についてきめ細やかに作成できるようにする。
- ・スクールカウンセラー・特別支援アドバイザーの活用～教員が学ぶ、保護者との面接や子育て相談を重要視し、保護者の気持ちやニーズと同時に園での指導法、就学に向けての方針を共通理解する。
- ・小学校の教員、保育園保育士、他園の教員等の指導場面の参観・交流の打ち合わせ～学びの基盤づくり、小学校教諭の専門性、円滑な接続について計画的に進められるようにする。また、アカデミーでの研究保育、中学生との交流については目的を明確にして各教員が役割を意識して進められるようにする。

(2) 体験活動の重視について

- ・自然と関わる、様々な人と関わる、好きな遊びや物と関わる～自然への畏敬の念、栽培や収穫の喜び、食育、体への関心、多様な文化、科学的な知識や興味、体力・コミュニケーション力の強化を常に意識して指導を進める。
- ・今年度の園内研究会の主題として「幼児の運動遊び」に着眼し、園内での指導とともに保護者にも協力を仰ぎ、幼児の運動遊びの充実に力を入れ、幼児の心身をたくましく育てる。

(3) 保護者の信頼を得て、「一緒に子育て」について

- ・発達の理解の促し・幼児期の育児の重要性の啓発、園の教育の見える化、園の教育方針や指導方法を分かりやすく明確な周知方法、子育て相談、園児と関わる直接体験（食育・おはなしの機会、保育参加）、等を通して「一緒に子育て」を推進する。また、園内の担任以外の全教員での協力体制も重要視して教育活動を推進する。

○今年度のキャッチフレーズの通り

★チームワークよく、活気のある幼稚園 教職員と家庭・地域が力を合わせ、教育活動を推進する。